

## 放送大学次期学長予定者の決定について

放送大学学園

放送大学学長選考会議は、放送大学学園寄附行為第25条第2項の規定に基づき、以下のとおり、平成29年4月1日を任期の始期とする放送大学学長予定者を決定した。

### 記

1. 学長予定者の氏名 <sup>きすぎ</sup> 來生 <sup>しん</sup> 新 (69) (現職：放送大学学園理事・放送大学副学長)

(任期：平成29年4月1日から平成33年3月31日まで)

### 2. 学長予定者の経歴

最終学歴 北海道大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学 (法学修士)

略歴	1975 (昭和 50) 年 4 月	横浜国立大学経済学部助教授
	1989 (平成 元) 年 4 月	同 教授
	1998 (平成 10) 年 4 月	同 大学院国際開発研究科長
	1999 (平成 11) 年 4 月	同 大学院国際社会科学研究科教授
	2003 (平成 15) 年 4 月	同 大学院国際社会科学研究科長
	2005 (平成 17) 年 4 月	同 理事・副学長 (2009 (平成 21) 年 3 月まで)
	2009 (平成 21) 年 5 月	放送大学教授
	2011 (平成 23) 年 5 月	同 副学長
	2014 (平成 26) 年 4 月	放送大学学園理事・放送大学副学長 (現在に至る)

### 3. 選考の理由

学長選考会議は、推薦書及び推薦理由書、学長候補者から提出された所信表明書及び経歴書、教授会の意見聴取の結果及び学長候補者に対する面接の結果を踏まえ、「次期放送大学長に求められる学長像」(平成28年9月放送大学学長選考会議)に掲げられた放送大学の役割を担い、これらの課題を解決する資質・能力に相応しい者であると判断し、來生新氏を次期学長予定者として決定した。

放送大学は、開学以来32年を経過したが、さらに大きな飛躍を遂げ、新たな学生層の開拓など幅広い学習機会の提供を図り、多様な社会的要請にこたえていくためには、放送授業の内容や学習支援の充実とともに新しい教育手法を活用した授業の充実を必要としている。

同氏は、これまで副学長として学長を補佐する中で、社会のニーズに合った教育を提供するためのカリキュラム改革の実行や、新たな教育手法となるオンライン授業の充実を図るとともに、教員の能力開発を主眼とした新しい教員評価制度の構築など、積極的

に大学改革を推進してきた。

生涯学習の中核的高等教育機関としてのミッションを、厳しい財務状況の中で実現していくために、同氏は、以下の4点を主要な方策として掲げており、学長選考会議はこれを高く評価する。

- ① 学内における自発的改革の実現及び学外への情報発信
- ② 教育の質の向上並びにオンライン授業による新たな教育手法の構築
- ③ 地方創生の核として学習センターの新展開を図り、地域の大学との連携を強化する
- ④ リメディアル教育の導入による学力向上などの教育改革

学長選考会議は、次期任期において、同氏が学長としてその資質・能力を発揮し、一層の大学改革を推進されることを期待する。

#### 4. 選考の過程

学長選考の基準及び選考日程の決定	平成28年 9月28日
学長候補適任者の推薦 (学長候補適任者2名)	平成28年10月12日から26日まで
所信表明書等の提出	平成28年11月 7日から18日まで
教授会の意見聴取	平成28年12月14日
学長候補者の面接	平成29年 1月11日
学長予定者の選考	平成29年 1月11日

学長選考会議の開催状況

**第7回学長選考会議**

(期日) 平成28年9月28日

(場所) 放送大学東京文京学習センター

(議事)

- ・ 議長の選任 (互選)
- ・ 学長選考日程の決定
- ・ 学長選考会議が定める選考基準の決定
- ・ 学長候補適任者の推薦について (通知)
- ・ 学長候補適任者の推薦受付後の取扱の決定

**第8回学長選考会議**

(期日) 平成28年11月30日

(場所) 放送大学東京文京学習センター

(議事)

- ・ 学長候補者の状況の確認等
- ・ 今後の学長選考手続の方針の決定

**第9回学長選考会議**

(期日) 平成29年1月11日

(場所) 放送大学東京文京学習センター

(議事)

- ・ 教授会の意見聴取の結果等
- ・ 学長候補者の面接
- ・ 学長予定者の決定